

脳外科通信



第4話 TIA(ティーアイエイ)は 脳梗塞の前触れ

井上病院脳神経外科 上之郷眞木雄

① 一過性脳虚血発作 (TIA) って、ご存知ですか。

アンケートによると、ご存知の人は2割に満たないとのこと。脳梗塞の症状については、第2話でお話しました。この症状が短時間で消えてしまう場合があります。これをTIAといいます。

Aさんの例をご紹介します。

- 76歳 男性
- 危険因子 高血圧、喫煙
- 病歴 夕食時、箸が使えない、
右腕が持ち上がらない、
呂律が回らない。
10分ほどで回復。
安心して、就寝した。
翌朝、右手足が動かず、
立ち上がれない。会話も
できず、救急車で搬送
される。
その後、薬物治療や
リハビリを受けたが、
要介護の状態となる。

夜間で病院は
閉まっているし...

とりあえず、
治ったしね--

この程度で受診する
のは大げさかな？



一体、Aさんに何が起こったのでしょうか？

夕食中の症状は一過性脳虚血発作（TIA）でした。TIAは脳梗塞の警告発作ともいわれ、「すぐあとに大きな発作（脳梗塞）がさしせまっている」と教えてくれていたのです。症状が消えてしまったと、すぐに病院に行かなかったAさん。一晩のうちに重篤な脳梗塞が生じてしまったのです。

② TIA、いったん出た症状がなぜ消えるのでしょうか？

脳の血管に詰まった血栓が、運よく溶けて流れてゆき、血流が再開したので症状がなくなったのです。でも再度血栓ができて、短時間のうちに本物の脳梗塞になってしまう危険性は高いのです。

③ TIAは脳梗塞の前触れ

Aさんの例、決して稀ではありません。

TIA出現後90日以内に脳梗塞を発症する危険度は15～20%、うち約半数はTIA後48時間以内に発症すると報告されています。

英国では、従来TIA出現から治療開始まで20日間もかかっていました。2004年に、これを大幅に短縮し、発症1日後には治療を始めるという試みが行われました。その結果、3か月以内に脳梗塞を発症する人は100人中10人から2人へ、8割も減少したのです。

④ TIAに対する病院での対応

MRI検査でTIAと診断したら、血栓が新しくできるのを阻止する薬を投与し、本物の脳梗塞発症をくい止めます。一刻も早く病院を受診してください。

